

平成23年7月19日
東京都水道局
東京都教育庁
小金井市教育委員会

「史跡玉川上水整備活用計画」に基づき実施した名勝「小金井（サクラ）」モデル区間における平成22年度の整備による改善状況及び景観への影響の確認について

1 整備区間

小金井公園正門前の東側約150m区間（詳細：別紙1）

2 作業内容

- (1) ヤマザクラを被圧している樹木の伐採：55本（詳細：別紙2）（東京都水道局）
- (2) ヤマザクラ苗木の補植：26本（詳細：別紙3）（東京都教育委員会・小金井市教育委員会・小金井市住民団体）

3 住民からの意見

別紙4のとおり

4 樹木医の意見

別紙5のとおり

5 学識経験者からの意見

別紙6のとおり

6 まとめ

(1) 改善状況及び景観への影響について

作業前の整備区間には、ヤマザクラ41本、その他の樹木84本が生えていた。その他樹木84本のうち55本を伐採したことにより、ヤマザクラへの日照条件が改善され、ヤマザクラ開花時の景観も良くなった。また、その他樹木84本のうち29本を残したことにより、ヤマザクラの保護と緑との調和が図られている。（別紙7参照（伐採前・伐採直後・開花時・新緑時の写真））

(2) ヤマザクラ並木の保存・復活に関する意見について

ヤマザクラ並木の保存・復活に関しては、住民からは賛成意見を多く頂いており、樹木医等の専門家からは、平成22年度に実施したモデル整備事業区間において、ヤマザクラを被圧しているケヤキ等の伐採により、サクラの生育環境が大幅に改善しているという意見を頂いている。

また学識経験者からは、小金井（名勝小金井（サクラ））では、サクラ

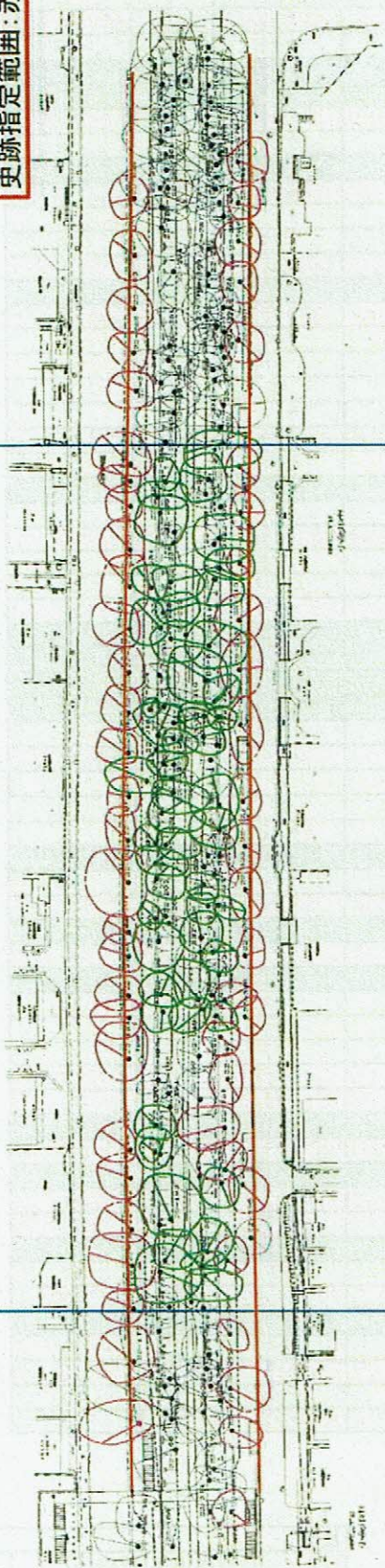
凡例

サクラ

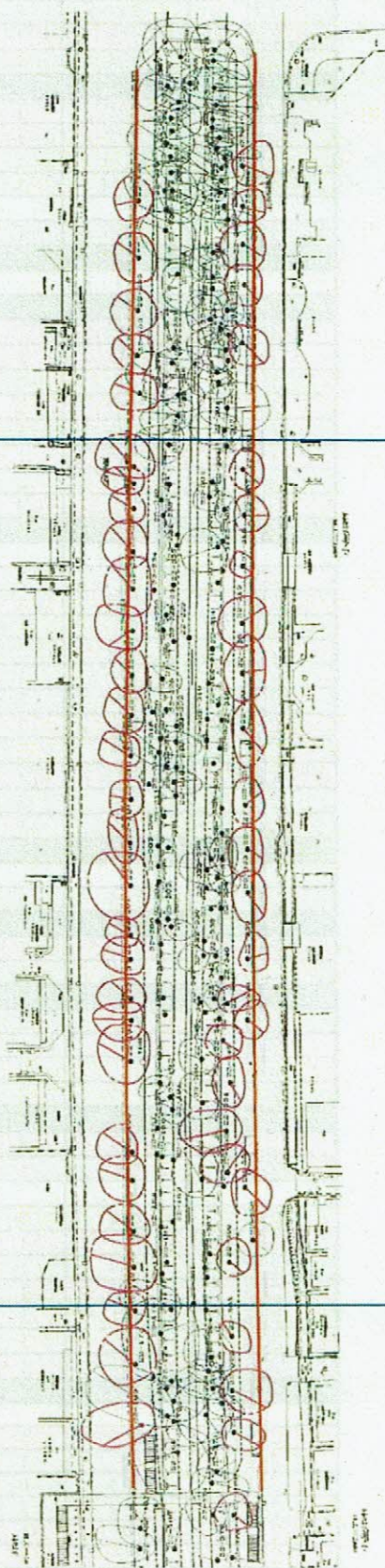
伐採木

史跡指定範囲: 赤線内側

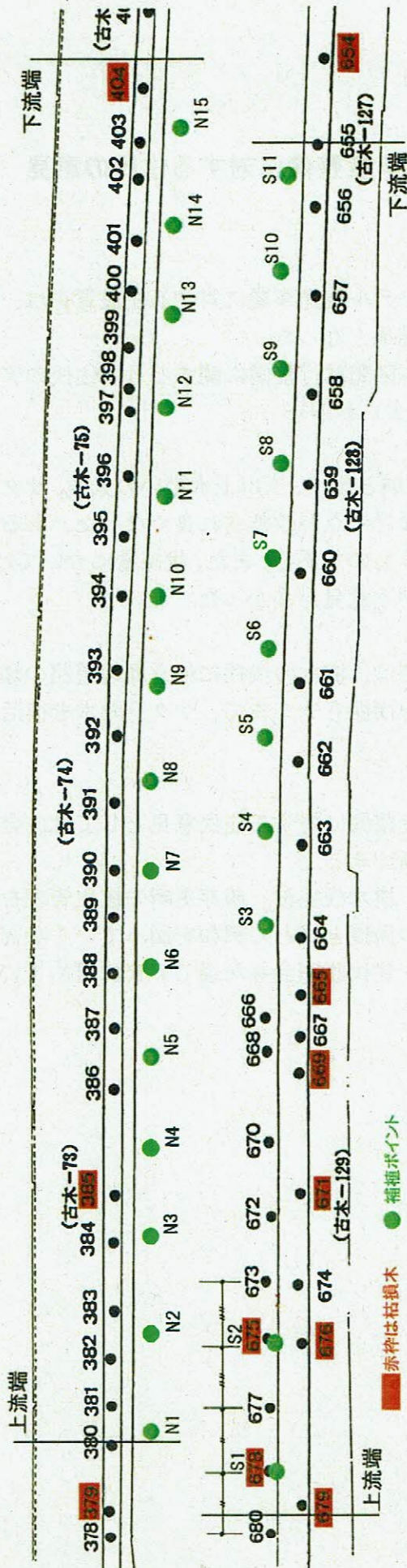
平成22年度実施区間 (150m) : 作業前



平成22年度実施区間 (150m) : 作業後



2010年度整備モデル区間(150M)補植ポイント図



- 1) 基本条件；両岸柵内、間隔10M、現在枯損部は中間点とする。
- 2) 左岸=15本、右岸=11本/合計=26本(補植ポイント)

平成 22 年度モデル区間試行整備に関する近隣住民のアンケート結果について

平成 23 年 6 月 2 日
小金井市教育委員会

モデル区間の近隣住民(緑町 2・3 丁目、関野町 1・2 丁目)約 370 戸(戸建中心)に、アンケート調査を実施した(本年 5 月)。その結果、67 件の回答があった。(回収率約 18%)

1 サクラ以外の樹木伐採による環境等の改善・影響について

1) 良くなった。46 人 (69%)

・桜の生育環境が良くなった。明るくなり、景観が良くなった。見通しが良くなり、防犯効果もある。落葉の被害が改善された等。

2) まだ判断できない。14 人 (21%)

・伐採には賛成だが、夏の暑さが心配。樹木をもう少し残して欲しい等。

3) 影響があった 7 人。(10%)

・五日市街道の騒音や排気ガスが増えた。法面が露わになって景観が悪くなった。小鳥を見かけなくなった。木が切られて自然が失われた等。

2 サクラ以外の樹木の伐採量について

1) この程度の伐り方で良い。 27 人 (40%)

2) もっと伐るべき。 23 人 (35%)

3) もう少し樹木を残すべき。 10 人 (15%)

4) 伐採すべきではない。 6 人 (9%)

5) その他 1 人 (1%)

(総括)

以上のように、以前より良くなった、まだ判断できない(伐採に肯定的意見)を含め、近隣住民の 80%以上から環境が良くなった(改善された)との意見が寄せられた。

伐採量については、この程度で良い、もっと伐るべき(サクラの生育のため、落ち葉被害解消のため)との賛成意見が多数を占める。また、本事業を今後も積極的に推進すべきとする意見が 17 件寄せられている。

一方、悪影響(騒音・排気ガス)があったという意見、雑木を切ってまでも名勝小金井(サクラ)復活には反対との意見 4 件、もう少し樹木を残すべきとの意見も 10 件寄せられている。アンケート以外にも生物多様性(環境問題)の観点から事業に反対する意見もある。こうした反対意見は少数とはいえ、文化的遺産としての史跡・名勝の保存活用という本事業の趣旨を理解していただけるよう、PR に努めていきたい。

(学識経験者の意見)

福嶋司先生 (東京農工大学教授・小金井市文化財保護審議会委員)

5月18日(水) 小金井市文化財保護審議会・現地視察

- 1 小金井=名勝小金井(サクラ)では、サクラと雑木(高木)が共存することはあり得ない。一番核になるものを何かと決めたら、その方針でいくしかない。一度、方針がぶれるとわけがわからなくなる。
- 2 玉川上水は、羽村の取り入れ口から歩いてみると、雑木を中心とする場所、小金井のようにサクラが中心の場所、暗渠部分を含めて色々な植生タイプがある。小金井を昔の姿に戻すと決めたのなら、それでよい。一番心配しているのは、ケヤキに被圧されたサクラの樹形が元に戻るかということ。
- 3 生物多様性は、種類が多ければ良いというものではない。あるべきものがある、それで安定していることが生物多様性である。また、外来種はあってはならない。玉川上水ではトウネズミモチやシュロは、無い方がいい。
- 4 雑木は、伐った次の年にはヒコバエが出てくる。雑木林の管理は、3年位経って、モヤ分けといって勢力のいいものを3本残し、雑木林の再生に使う。ヒコバエは1年で1m位は伸びる、実験で50%伐ったとしても、すぐに戻ってしまうほど勢いがある。伐採後は、常にチェックしながら、サクラと雑木が競合しないように、ヒコバエの管理を進めることが必要。

現地を見た後のコメント

- 1 緑への配慮で残した樹木の中に外来種のトウネズミモチが何本もある。除去すべき。
- 2 歩道橋付近の高木は込みすぎている。当面皆伐しない場所でも高木を間伐すれば光が入り、既存のサクラの生育環境がかなり改善される。

自然萌芽の状況

別紙8

新小金井橋～関野橋間（小金井市関野町1丁目地先）



平成23年6月3日

(参考) 桜橋～境水衛所跡（武蔵野市関前1丁目地先）



平成23年3月撮影